

【別添2】

ノウフク・アワード2025審査基準

【福祉事業所等が主体となっている取組】

（「実施要領3(1)募集する取組」のうち②、④、⑤、⑥の取組）

農福連携等応援コンソーシアムのアイデンティティを「耕すみんなを応援する」とし、これに連動させ、ノウフク・アワード2025では「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」という3つのキーワードを評価軸に設定し、多様な視点・切り口から評価を行い、90点満点で評価を行う。なお、応募用紙の一部の項目において、字数制限を著しく超過した場合は減点対象となる。

3つのキーワードの視点

「人を耕す」=農福連携等を推進する多様な当事者に光が当たる取組になっているか

「地域を耕す」=地域農林水産業に積極的に関与し、持続可能な地域社会のあり方を発信できるような取組となっているか

「未来を耕す」=農福連携等の新しい価値、物語を発掘し、波及効果のある取組となっているか等

選定基準	評価ポイント	評価点	点数配分
1. 人を耕す	○ 障害者等1名あたりの月平均賃金が過去5年で増加している、障害者等1名あたりの月平均工賃が当該都道府県の平均以上となっている（生活介護事業などを行っている場合は、賃金・工賃では評価が困難であることから、農作業等による障害者等の居場所づくりなどによって、地域で暮らす障害者等の生きづらさの解消につながっている取組等について評価すること） ○ 障害者等に対して能力や適性に応じた農作業等の選定、リハビリテーション等が行われているほか、管理者や責任者などにステップアップしている事例も見られる ○ 障害者等が働きやすい環境の整備を行っているほか、農作業等の安全管理や健康管理が適切に行われている ○ 障害者等がその能力を活用して農林水産業等に携わることで社会参画を図り、自己決定に基づいて、地域において主体的な生活を営むことができており、一般就労へとつながっている事例も見られる ○ 障害者等が農林水産業において活躍する姿を通じて地域や職場内等で障害者等に対する理解が深まり、多様な人々が過ごしやすい環境の創出につながっている ○ 多様な人々が農福連携に関わることで、お互いを認め合う雰囲気生まれており、立場が違っても理解し、寄り添い、助け合おうとする環境が創出されている	各 評 価 項目5点 ×6項目	30点
2. 地域を耕す	○ 地域の農林水産業経営体やJAなどと連携を図り、地域の農家等への農業支援等を行うことで、地域の農林水産業を支える存在となっている ○ 荒廃農地等の活用などにより、農福連携の取組が地域の農林水産業を支える取組へとつながっている ○ 地域の農地・伝統野菜・農業技術等の継承や荒廃農地等の活用、地	各 評 価 項目5点 ×6項目	30点

	域共同活動等を通じて、地域の農林水産業の維持・発展に寄与している ○ 地域の祭りやイベントの開催・参加を通じて地域内での交流が活発化し、地域コミュニティの維持・発展に貢献している ○ 直売所やレストラン・カフェの開設、農作業体験や収穫体験等を通じて地域外との交流を行っている ○ 地域協議会との連携等、農福連携を通じて地域の企業・農林水産業経営体・JA・社会福祉法人・特別支援学校・地方公共団体等がつながる取組などにより、地域活性化へとつながっている		
3. 未来を耕す	○ スマート農業等、先進性、独創性、話題性がある取組を行っている ○ 地域協議会との連携等、これから農福連携に取り組む団体等の模範となる取組であり、全国への波及効果が期待できる ○ ユニバーサル農園の取組等、地域内外との連携を深めることで、持続可能な地域共生社会や多様性のある地域づくりに貢献しており、これからの日本社会に必要な農福連携の形が発信できている ○ 農福連携の取組が地域内に止まらず、地域外の団体等とも連携し、幅広い分野・地域とのつながりを生むことで、新しい農福連携の形が形成されている ○ 環境等に配慮した持続可能な農業、ノウフク JAS や GAP 等の認証取得、6次産業化などを通じて、農福連携によって生産された商品の付加価値向上を図っているほか、農福連携の取組を通じて地域農林水産業の未来に明るい兆しが見えている ○ 人の心を動かす農福連携に関するストーリーがあり、企業や国民が応援したいと思わせるような取組である	各 評 価 項目5点 × 6項目	30点